

<今回>382回目 2025年11月24日(月)14時10分～17時 602会議室

読書は3冊目「盗まれた神話」ミネルヴァ版 p112 宙に浮いた史書

<前回>第381回目(25-11-10)出席者9名

資料1)第380回(25-10-27)のまとめ(清水)

資料2)宋史日本伝(清水)

資料3)日本書紀に一度しか登場しない史料(清水)

資料4)古事記上巻と日本書紀神代巻との関係表(高山)

資料5)帝王本紀登場の原文(高山)

資料6)吉田本の写本原文一部(高山)

A 報告 昨日の土日の八王子セミナーの感想を紹介。現地には南雲さんが参加した。清水はオンラインで傍聴した。会場は35名、オンラインでは42名の参加があった。講師は通説派の仁藤(文献史学)久住、関川(考古学者)の3方、大墨氏が仕切り役で進行。

1, 仁藤先生は昔からの日本書紀の解説の歴史を学者らしく、レジメも事前配布されて、かなり丁寧に話されていた。気になる点は金印の3段読み、会稽東冶読み、生口は戦争奴隷説、公孫氏の存在と魏の対立の評価、孫権の呉の背後に邪馬台国を想定している。自己弁護しながら通説の成り立ちを説明、12000里は観念的な数字(大月氏国)古田説は読んでいる。榎一雄の放射線読みが出て、九州内部に収まる可能性がでてきたが、30か国の共立から存立基盤が弱く、**邪馬台国連合**として物資のコントロール機能を統制していたのではないかと。

2. 久住先生は布留式土器などの編年と年代観から、4世紀は古墳時代、卑弥呼は3世紀の存在。3世紀の近畿は銅鐸時代。もう一つははっきりしない。

3. 関川先生 古墳から出る鏡は4世紀である。港湾と市と倉庫、広場が対で出る。平原古墳、黒塚古墳の話が出たが話を出した趣旨は不明。投馬国は水行20日のところにある。鹿児島説もあるが出雲説もある。伊都国と邪馬台国は近距離にある。

4. 3講師交えた討論会の印象;3者とも自分の領域にはさすがに深い造詣が感じられるが、共通の概念は天皇一元主義。学問的な解釈では、邪馬台国連合国家論(大小使い分け)、4世紀は古墳時代であり、量産化時代が繰り返される。大墨氏が物にこだわり過ぎたところもあり、絹の九州説は古い、古田先生の考古学は50年前の物であり、現在はずっと進んでいる。と云いたいらしい。考古学者は皆、近畿説らしい。粗末な献上品でも魏にとっては時宜を得たもので、呉の背後者が近づいてきたと過大評価した。私は倭の5王武の55国、66国の数字の一国は一国の大きさを吉野ケ里遺跡くらいの大きさと思っている。

B 資料2)、3、は再度出したもので、平安時代になっても弘仁私記を経ても神代記は理解されていない。

資料 3、4、5))高山氏から配布された。神話の段は後学者が写本の際、分かり易く分けたもの、資料の吉田本の説明が参考になった。高山氏の解釈の裏づけになっていた。

C 読書 ミネルヴァ版 P110「帝王本紀」の存在。 から 今回未読

第384回目 12月8日(月) 14時10分から17時まで602会議室

第385回目12月22日(月) 14時10分から17時まで603会議室